
月の裏側

風唄

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の裏側

【Nコード】

N8916A

【作者名】

風唄

【あらすじ】

あなたは月の裏側を見たことはあるだろうか、答えはノーだろう、この話は月の裏側がどうなっているか空想してみようと思う、

（前書き）

この話しは阿保な空想ですm（――）m正直読むのは無駄と思います
す、無駄なことしたくない場合は読まない方が賢明と言えますm（
――）m

皆さんは月が裏側を見たことあるだろうか、

答えはノーだろう、

月の公転と自転の関係で月は裏側を地球に見えることは無い、

まず、裏側の定義として、地球から見える範囲が表、見えない範囲が裏と定義したい、

そして、ここでは月の裏側に何があるのかを空想してみたい、

正直、阿保な話だ、

聞くだけ無駄だ、

書くだけ無駄な話なのだか、私の自己満足で書いていこうと思う、

勿論、実際には面白いものなど無いのだが…

空想の話なので気にしないでいただきたい、

まず、ありがちな話、兔が居る、

勿論、兔といっても生身の兔が生息できる筈はないため、

兎に似ている地球外生命体と仮定しよう

無論、酸素などないため現代科学ごときでは説明できない構造、と言っことにしておきたい、

深海魚が深海に適応しているように、

高山植物が高山で生活できるように、

彼等は月に適応しているのだ、

そうして、ゆつくりと彼等は固体数を増やしていった、

その数は徐々に増えて行き、少しずつ、知能を持っていたのだ！

そうして、彼等は少しずつ徒党を組むようになった、

徒党を組んだ彼等はリーダーを決め、チームを作り、やがて、チームはグループになり、グループは班になり、やがて、小さな村が各地に出来始めた、

少し補足だが、兎が寂しくて死んでしまうのはデマである、元々兎は単独行動を好むが、この話しの兎は別物と仮定していただきたい、

彼等は、平和に暮らしていた、

だが、あるとき、小さいいざこざから戦争が起きたのだ、

村のものたちは集まり、ひっかいたり、体当たりしたり、叩いたり、石を投げたりして戦った（重力は六分の一）

想像していただきたい、

兎が集団で敵に突撃していく様を、

…カワイイとか言っではいけない、

そうして、やがて、彼等の村は次第に大きくなった、

無論、あんな戦いで死傷者は殆どできない、

そうして、村は町になり、町は国となっていた、

ここで、国王達は、停戦協定を結んだ、

支配地域が大きくなり過ぎたのだ、

彼等は元々、リーダーだった、

リーダー一人では大きな国を動かすことはできない、

彼等は各地に村長、町長を置き、

国に各担当者を置き、支配を確立させていった、

ここで、彼等に革命が起こった、

いままで、彼等は、村といっても兎達が集まっていただけに過ぎないのだ、

だが、支配地域が大きくなり、敵国が出来たために、道が整備され、城壁が作られ、城や家を作り、鎧兜を精製し、武器としてアイアンクローを作ったり、各国が競いあっていた、

そして、徐々に発展していったのだ、

ここで、もう一度想像していただきたい、

石で出来た城に、兜や鎧を纏い、アイアンクローを装備した門番に、兵、

決して、カワイイとは言ってはいけない、

月は重力が小さいため、城はおのずと大きくなる、
(兎自体も重力が小さいため、大きくなる筈だが、この場合は気にしないとおこう、)

こうして、彼等は少しずつ、少しずつ繁栄していったのだ、

しかし、兎達は増え過ぎたのだ、

彼等の人口密度…いや、兎口密度は大きくなっていった、

それが、兎達にストレスがたまっていたのだ、

そして、ある日、その不満は爆発した、

民衆の突き上げに対抗できずに、ある国が戦争を仕掛けたのだ、

そして、その戦争は、やがて世界大戦とよばれるまで大きくなった、

この戦争は前回とは違う、

各国が効果的かつ、知的に効果的な戦略をつかい、集団戦を行い、優れた武器を使い、優れた砦、城、城壁、鎧、兜などを使ったのだ、

彼等は死傷するものが沢山現れた、

やがて、各国は続戦する力が無くなった、

そして、停戦を行った、

この戦争によって、皮肉にも兎口密度は極端に下がったのだ、

そして、彼等は戦争の悲惨さを初めて悟ったのだ、

彼等は次第に協力して、兎の支配地域を広げていった、そこで彼等は遂に、月の表側にたどり着いた、

そこで、彼等は、地球の存在を初めて知った、

兎達は、驚いた、

あんな星があるなんて、と、

そして、彼等はあの星に行きたいと、思う、

思いは力となり、彼等の技術は急速に発達したのだ、

やがて、数百年がたった、

やがて遂に、完成した、

そうして彼等は、優れた技術を持ち、古代地球にやってきたのだ、

そこには、先住民として、人間がいた、

そこで彼等の一部が、ナスカの地上絵やピラミッドなどを人間を酷使して作ったりした、

しかし、それが兎達の間で問題になった、

彼等にも意志がある、権利を尊重すべきだ、や、彼等は奴隷にすべきだ、など、

そうして、彼等は真つ二つに別れた、

やがて、戦争が起こったのだ、

今回の戦争は発達した技術が悲劇を生んだ、

そうして、彼等は殆ど死滅した、

わずかに残った兎達は、もう、悲劇を生まないように、殆どの技術を捨て、地球にやってきた、

そうして、彼等は野性にかえることを決意し、生活していった、

ただ、彼等はほかの兎を信用しなくなり、徒党を組むことは無くなっていたのだ…

(後書き)

こんなつまらない、阿保な話しを最後までお読みいただきありがとうございました
うございました m () m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8916a/>

月の裏側

2010年10月30日10時14分発行